

**国際シンポジウム**  
**移住・家事労働者の権利保障と ILO 189 号条約**  
**——アジア、ヨーロッパ、アメリカ、そして日本——**  
**2016 年 12 月 10 日(土)～11 日(日)／会場：一橋大学東 2 号館 2201 教室**  
**日英同時通訳付**

【主催】 科研プロジェクト「移住家事労働者と ILO189 号条約」／国際移動とジェンダー研究会

【協賛】 一橋大学大学院社会学研究科(国際社会学プログラム、ジェンダー社会科学センター、フェアレイバー研究教育センター)；国際家事労働者連盟(IDWF)、NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク、NPO 法人 アジア女性資料センター、有償家事労働ネットワーク

【後援】 連合(日本労働組合総連合会) / 【協力】 ILO 駐日事務所

1 日目	12 月 10 日(土)
9:30-9:45	オープニング 伊藤るり(一橋大学) 趣旨説明
9:45-10:30	【基調講演】「他と比べられない仕事——世帯雇用、ILO、そして家庭における労働の承認」 アイリーン・ボリス(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)
10:30-12:00	【セッション1】アジアの事例——フィリピン、インドネシア、香港 * 司会: 定松文(恵泉女学園大学) 1. 小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学)「C189 批准のローカル、トランスナショナルな効果——フィリピンにおける国内家事労働者と海外移住家事労働者の新しい連帯」 2. 平野恵子(北海道教育大学)「『技能化』が意味するもの——インドネシアの移住・家事労働者と C189」 3. 大橋史恵(武蔵大学)「香港におけるローカルな家事労働者と移住家事労働者」
12:00-13:30	昼食休憩
13:30-15:30	【セッション2】ヨーロッパの事例——イタリア、ドイツ、フランス、EU * 司会: 小井土彰宏(一橋大学) 1. 宮崎理枝(大月短期大学)「権利擁護と規制緩和——イタリア家事労働の二重性」 2. 篠崎香子(デュイスブルク=エッセン大学)「移住ケア・家事労働者の組織化への契機と挑戦——ドイツの経験から」 3. 伊藤るり(一橋大学)「フランスのパラドクス——『家事労働』のフォーマル化、移住家事労働者の権利、そして 189 号条約」 4. 中力えり(和光大学)「EU における移住・家事労働者の権利保障と対人サービス分野の拡大をめぐる」
15:30-15:45	休憩
15:45-16:45	【セッション3】アメリカ合衆国の事例 * 司会: 中力えり(和光大学) 1. 小井土彰宏(一橋大学)「カリフォルニア州家事労働者の権利章典恒久化への道——ローカルな多元的移民権利運動と地域間・国際的闘争の作用」 2. 森千香子(一橋大学)「移住家事労働者とワーカーズ・コーポラティブ——ニューヨーク市の事例」
2 日目	12 月 11 日(日)
10:30-12:00	【セッション4】日本の事例 * 司会: 足立真理子(お茶の水女子大学) 1. 定松文(恵泉女学園大学)「新国際再生産分業としての期限付き請負家事労働——日本の国家戦略特区における『外国人家事支援人材』」 2. 藤本伸樹(ヒューライツ大阪)「『外国人材の活用』政策としての介護労働者の現状を検証する」 3. 竹信三恵子(和光大学)「進む『嫁労働』の新自由主義的再編」
12:00-14:00	昼食休憩
14:00-17:00	【パネル・ディスカッション】移住・家事労働者の権利保障と ILO 189 号条約の意義——組織化の現場から * 司会: 小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学)、山岸素子(移住者と連帯する全国ネットワーク) 1. エリザベス・タン(国際家事労働者連盟[IDWF]事務局長) 2. ジタ・カバイス=オブラ(フランス・フランス民主労働同盟[CFDT]) 3. エルマジョイ・カルドナ=セルナンデ(香港・家事労働者進歩労働組合[PLUDW-HK]) 4. 土屋華奈子(有償家事労働ネットワーク)  閉会のことば

## 【シンポジウムの趣旨】

ILO「家事労働者のディーセントワークに関する条約」(C189)、及び同勧告(R201)が採択されてから5年以上が経ちます(2011年6月採択、2013年9月発効)。これらは、従来、多くの国で労働法の適用外とされてきた家事労働者(移住労働者を含む)の国際労働基準を定める画期的な意義をもち、移住・家事労働者の(再)組織化と権利保障において、新段階をもたらしました。

本シンポジウムは、(1) 科研プロジェクト「移住家事労働者とILO189号条約——組織化・権利保障・トランスナショナルな連帯」の中間報告を行うとともに、(2) 折しも関東(神奈川県、東京都)と関西(大阪府)の「国家戦略特区」において「外国人家事支援人材受け入れ事業」を進めることになった日本の課題を、世界各地の現状との比較を通じて、明らかにすることを目的とします。

1日目は、女性労働運動史の歴史家として知られるアイリーン・ボリス教授(カリフォルニア大学サンタバーバラ校)の基調講演で開始し、これを受けてアジア、ヨーロッパ、アメリカ各地での移住家事労働者の権利保障状況とこれにC189が与えたインパクトや現下の課題などについて、現地調査に基づき研究報告を行います。また、2日目には、日本の現状についての研究報告のあと、家事労働者の組織化に取り組む海外の労働組合ならびにNGOの活動家を迎え、日本の状況に詳しい関係者とともに、各国の取り組みと日本における課題を考えるためのパネル・ディスカッションを行います。

### 科研プロジェクト(基盤研究(A)海外学術調査)

- 研究課題名: 移住家事労働者とILO189号条約——組織化・権利保障・トランスナショナルな連帯(課題番号: 15H02602)
- 研究期間: 2015~17年度
- 研究代表者: 伊藤るり(一橋大学)
- 研究分担者: 大橋史恵(武蔵大学)、小ヶ谷千穂(フェリス学院大学)、小井土彰宏(一橋大学)、定松文(恵泉女子学園大学)、中力えり(和光大学)、平野恵子(北海道教育大学)、宮崎理枝(大月短期大学)、森千香子(一橋大学)
- 連携研究者: 足立真理子(お茶の水女子大学)
- 海外共同研究者: 篠崎香子(ドイツ・デュースブルク=エッセン大学)
- 国内研究協力者: 藤本伸樹(ヒューライツ大阪)、山岸素子(移住者と連帯する全国ネットワーク、カラカサン)
- 海外アドバイザー: クレア・ホブデン(国際労働機関[ILO]、ジュネーブ)、マリエケ・ケーニヒ(国際労働組合総連合[ITUC]、ブリュッセル)、エレン・ルバイ(パリ政治学院)、ヘレン・シュヴェンケン(オスナブリュック大学、オスナブリュック)、エリザベス・タン(国際家事労働者連盟[IDWF]、香港)

※国際移動とジェンダー研究会(通称「イメージ研」)について

イメージ研(IMAGE: International Migration and Gender Research Collective)は、2000年にお茶の水女子大学ジェンダー研究センターの関連研究会として発足し、7年間にわたって同センターを拠点として共同研究プロジェクトを進めてきました。2007年4月以降は、一橋に拠点を移し、お茶の水女子大学ジェンダー研究センターとも提携を継続しながら、活動を進めています。

- プレ・シンポ・イベントとして、<12月9日金>に映画上映+解説(小ヶ谷千穂)を開催。会場: 一橋大学西キャンパス第2講義棟405教室。  
映画「イロイロ——ぬくもりの記憶」[99分、監督・脚本 アンソニー・チェン、2013年、シンガポール]
- 問い合わせ先  
事務局: 嶽本新奈 [2016image.c189@gmail.com](mailto:2016image.c189@gmail.com)  
一橋大学大学院社会学研究科・国際社会学プログラム HP: [http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans\\_soci/](http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/)